

March 1, 2021

**【前日の為替概況】ドル円、4日続伸 米債利回りの動向を背景としたドル買い継続**

26日のニューヨーク外国為替市場でドル円は4日続伸。終値は106.57円と前営業日NY終値(106.21円)と比べて36銭程度のドル高水準だった。米10年債利回りが前日に一時1.6085%前後まで急騰したことを受けて、この日もドル買いが継続した。NY市場に入り、ダウ平均が一時490ドル超下落すると、リスク・オフのドル買いが活発化し一時106.69円と昨年8月28日以来約半年ぶりの高値を付けた。市場では「米連邦準備理事会(FRB)が年内に資産購入の減額を議論するとの観測が高まっており、パウエルFRB議長の緩和継続姿勢に懐疑的になりつつある」との声が聞かれた。

ユーロドルは3営業日ぶりに反落。終値は1.2075ドルと前営業日NY終値(1.2175ドル)と比べて0.0100ドル程度のユーロ安水準だった。米長期金利の上昇基調に対する警戒感から世界各国の株式相場が下落すると、投資家が運用リスクを取りにくくなるとの見方から安全資産とされるドルが買われた。ユーロポンドの下落につれたユーロ売り・ドル買いも出て、6時過ぎに一時1.2062ドルと日通し安値を付けた。ユーロポンドは「月末特有のユーロ売り・ポンド買いのフローが観測された」との声も聞かれ、一時0.8656ポンドまで下落した。ユーロ円は4日ぶりに反落。終値は128.67円と前営業日NY終値(129.32円)と比べて65銭程度のユーロ安水準。ドル円の上昇につれた買いが先行し一時129.39円付近まで値を上げたものの、アジア時間に付けた日通し高値129.52円を上抜けることは出来なかった。ドルやポンドに対してユーロ安が進むと、対円でもユーロ売りが強まり一時128.56円と日通し安値を更新した。

原油や銅など商品相場下落を背景に、資源国通貨が軟調に推移した。豪ドル米ドルは一時0.7693米ドル、NZドル米ドルは0.7223米ドル、米ドルカナダドルは1.2749カナダドル、ドル・南アフリカランドは15.1972ランドまで米ドル高に振れた。

**【本日の東京為替見通し】米金利相場継続、東京時間はもみ合いもNY時間は乱高下の可能性**

本日の東京時間のドル円市場は、底堅さは維持されるだろうが神経質な値動きになりそうだ。市場の注目が米金利の動向ということもあり、米市場が開くまではあくまでも思惑や実需のフローによる相場になり、トレンドを形成するのは難しい。

ここ最近のドル円は米金利高でドル買いに反応し、米金利が低下しても株価上昇で円売りになるなど、非常に底堅く推移している。この買いトレンドの中でショートにしている市場参加者は多くないことや、日銀短観で発表された2020年度下期の大企業・製造業の想定為替レート106.42円を上回り、2020年通期想定為替レートの106.70円近辺で取引されていることで実需勢の売り意欲が強く、上昇する場合も勢いは緩やかになると思われる。本日の東京時間は余程のことがない限り、買い遅れで下値では拾う市場参加者と、上昇時に適宜売りを入れてくる実需勢の間に挟まれたトレードを繰り返すだろう。

東京時間では動きが限られるだろうが、本日を含め今週は米経済指標や、米要人の講演が多数予定されていることで、市場の値動きは激しくなることが予想される。本日は米国から複数の経済指標が発表されるが、2月の米ISM製造業景気指数が一番の注目となる。また、ウィリアムズ米NY連銀総裁、ブレイナードFRB理事、ボスティック米アトランタ連銀総裁、マスター米クリーブランド連銀総裁、カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁の講演が予定されている。先週はブロード米セントルイス連銀総裁が「最近の米10年債利回り上昇は妥当な市場の反応」との認識を示し、インフレ期待の高まりを目指すFRBにとっては「歓迎すべき動向だ」と発言。ボスティック米アトランタ連銀総裁も「利回りは歴史的にみて依然として非常に低い」「FRBが現時点で利回りに対応する必要はない」などと語ったように、両者は金利高をけん制していない。ウィリアムズ米NY連銀総裁も2月中旬に「利回りの上昇は懸念していない」などと発言している。今晚は要人の発言が変わらないのか、もしくは先週の米金利の高騰について懸念を表明するか注目が集まる。なお、今週は4日(日本時間では5日未明)にパウエルFRB議長もウォールストリート・ジャーナル主催のイベント前に公開インタビューを受ける予定になっている。

米金利以外では先週米下院で可決した、1兆9000億ドル規模の経済対策案の審議が今週から上院で行われる。法案については最低賃金を1時間あたり7.25ドルから15ドルに引き上げる提案については、民主党内でも反対意見が出ていることで、今後の動向には注目したい。また、サウジアラビアをめぐる混迷(イエメンのフジ派による攻撃や、ムハンマド・ビン・サルマン皇太子が2018年のカショジ氏殺害を承認したことを米国が認めたこと)が、今後の中東情勢に影を落とし、為替相場にも影響を与えることも

あるため注意を怠らないようにしたい。なお、欧州通貨、オセアニア通貨、新興国通貨などはドル円と比較にならないほど大きく動いており、市場全体を見回すとドル円相場への参加者は少ない。これらの通貨も米金利動向次第ということは否めないため、NY入り後までは神経質な値動きになりそうだ。特に明日2日に豪準備銀行（RBA）の理事会が開かれることで、豪ドルの動きには要警戒。ここ最近では米金利同様に大きく上昇していた豪金利が、早朝から神経質に動いていることで、豪ドルの値動きにも注目したい。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

### <国内>

特になし

### <海外>

- 10:45 ◎ 2月Caixin中国製造業購買担当者景気指数（PMI、予想：51.4）
- 16:00 ◎ 10-12月期トルコ国内総生産（GDP、予想：前年比7.0%）
- 16:00 ◇ 2月トルコ製造業PMI
- 16:30 ◇ 1月スイス小売売上高
- 17:30 ◇ 2月スイスSVME購買部協会景気指数（予想：60.1）
- 17:50 ◎ 2月仏製造業PMI改定値（予想：55.0）
- 17:55 ◎ 2月独製造業PMI改定値（予想：60.6）
- 18:00 ◎ 2月ユーロ圏製造業PMI改定値（予想：57.7）
- 18:30 ◎ 2月英製造業PMI改定値（予想：54.9）
- 18:30 ◇ 1月英消費者信用残高（予想：▲20億ポンド）
- 18:30 ◇ 1月英マネーサプライM4
- 22:00 ◎ 2月独消費者物価指数（CPI）速報値（予想：前月比0.5%／前年比1.2%）
- 22:30 ◇ 10-12月期カナダ経常収支（予想：70.0億カナダドルの赤字）
- 23:00 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、あいさつ
- 23:05 ◎ ブレイナード米連邦準備理事会（FRB）理事、講演
- 23:45 ◎ 2月米製造業PMI改定値（予想：58.5）
- 24:00 ◇ 1月米建設支出（予想：前月比0.8%）
- 24:00 ☆ 2月米サプライマネジメント協会（ISM）製造業景気指数（予想：58.6）
- 2日 03:00 ◎ 2月ブラジル貿易収支（予想：6.38億ドルの黒字）
- 2日 04:00 ◎ ポスティック米アトランタ連銀総裁、マスター米クリーブランド連銀総裁、カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、討議に参加
- 韓国（独立運動記念日）、休場

2日

### <国内>

- 08:30 ◎ 1月完全失業率
- 08:30 ◎ 1月有効求人倍率
- 08:50 ◇ 2月マネタリーベース
- 08:50 ◇ 10-12月期の法人企業統計調査（法人季報、ソフトウェアを含む設備投資額）

### <海外>

- 09:30 ◎ 1月豪住宅建設許可件数
- 09:30 ◇ 10-12月期豪経常収支

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

26日 09:19 オア・NZ 準備銀行(RBNZ) 総裁  
「緩和的な金融政策は長期に渡って変更せず」  
「必要ならばマイナス金利などさらなる緩和策を講じる可能性」

26日 09:41 米国防総省  
「米国はシリアで防衛空爆を実施した」  
「イランが支援する過激派グループが使用する国境管理ポイントの複数の施設を破壊」  
「空爆はシリアとイラクの紛争をエスカレート解除することを目的」

26日 14:00 黒田日銀総裁  
「政策点検、方向性言えないが効果や物価低迷の理由など議論」  
「コロナ禍でイールドカーブを低位安定させることが大事」  
「金融政策でこれ以上できること何もないとは言えない」  
「日本経済や物価は下向きのリスク」

26日 17:42 シュナーベル欧州中央銀行(ECB) 専務理事  
「名目金利の変化は注意深く監視する必要」  
「利回りの上昇が成長を損なう場合は、ECBは追加サポートが必要かもしれない」  
「名目利回りの上昇がインフレ期待を反映している場合、それは歓迎すべき兆候」  
「長期金利の上昇は回復を損なう可能性がある」

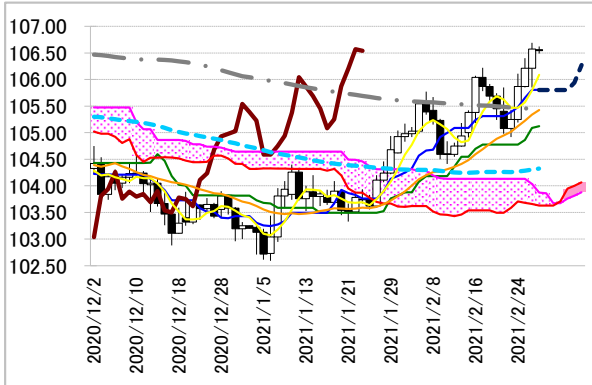
26日 20:08 ホールデン英金融政策委員会(MPC) 委員  
「インフレ率の高止まりを予想」

26日 20:13 ロシア外務省  
「(米軍のシリア空爆) 行為を非難、シリアの主権や領土保全を尊重すべき」

26日 22:40 ラムスデン・イングランド銀行(英中銀、BOE) 副総裁  
「利回りの上昇は経済を巡る好材料を反映している」

27日 00:47 ストゥルナラス・ギリシャ中銀総裁  
「ECBはパンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)を加速する必要」  
※時間は日本時間

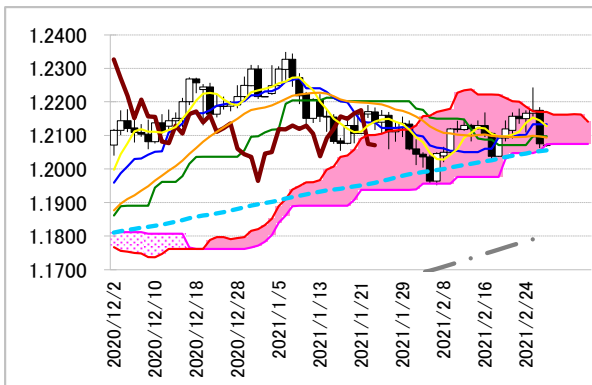
## 〔日足一目均衡表分析〕



＜ドル円＝上昇余地を残す転換線を支えとした底堅さ見込む＞  
下影陽線引け。105.85円へ下振れる場面もあったが持ち直し一時106.69円と昨年8月28日以来、約半年ぶりの高値をつけている。

先週末の下振れ局面でも一目均衡表・転換線を維持した。不安定に推移しつつも、今後の上昇余地を残す同線を支えとした底堅さが見込める。

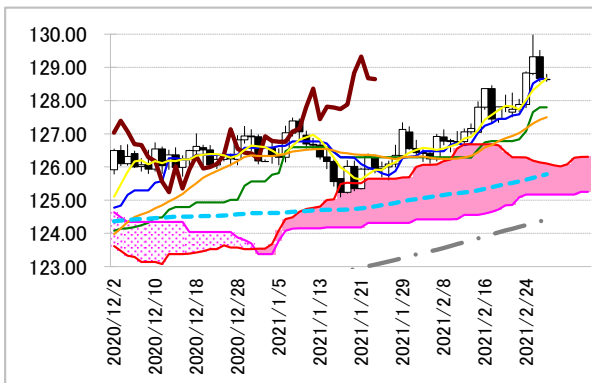
レジスタンス 2	107.21(ピボット・レジスタンス 2)
レジスタンス 1	106.95(2020/8/28 高値)
前日終値	106.57
サポート 1	105.81(一目均衡表・転換線)



### ＜ユーロドル＝90日線付近で底堅さ示すことできるか＞

大陰線引け。1.21ドルを割り込み、2月17日につけた1.203ドルを底とした直近の上昇幅を解消しつつある。一目均衡表・雲の下限1.2074ドル前後の攻防。1.2056ドル前後で上昇中の90日移動平均線も支えとなる可能性はあるものの、これらのテクニカル指標や17日安値を下抜けると、2月5日につけた年初来安値が次のめどとなる。

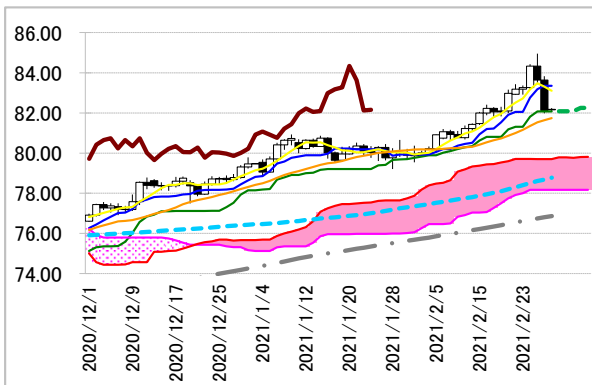
レジスタンス 1	1.2127(5日移動平均線)
前日終値	1.2075
サポート 1	1.2023(2/17 安値)



### ＜ユーロ円＝転換線前後の攻防＞

陰線引け。2月25日に2018年11月以来の130円台を目前に失速して以降の調整が加速し、128円台まで下落幅を広げた。一目均衡表・転換線128.65円前後の攻防だが、同線を下放れて調整が進展する展開も想定しておきたい。一目・基準線127.79円まで支えとなりそうな日足テクニカル指標は見当たらないが、まずは1月からの上昇幅に対する38.2%押し付近が、下押しした場合の目先のめどとなるか。

レジスタンス 1	129.28(ピボット・レジスタンス 1)
前日終値	128.67
サポート 1	128.11(1/18-2/25 上昇幅の38.2%押し)



### ＜豪ドル円＝21日線付近への調整もあるか＞

大陰線引け。1週間ぶりとなる82円割れまで下振れた。一目均衡表・基準線82.08円をいったん割り込む格好となった。緩やかな上昇維持が予想される同線付近の底堅さ維持を期待するが、その下の21日移動平均線付近までの下押し余地も見込んでおきたい。

レジスタンス 1	82.90(2/22 安値)
前日終値	82.13
サポート 1	81.74(21日移動平均線)

